

信州大学知の森基金を活用したグローバル人材育成のための短期学生海外派遣プログラム
実施状況および成果

プログラム名	夏期海外研修オーストラリア・カーティン大学(Curtin University) 夏期海外単位認定プログラム	
学部・研究科名	医学部	
実施期間	2015年8月7日～8月23日	
研修先(国・都市・施設名)	オーストラリア・パース・カーティン大学	
参加学生数	： 18名	知の森基金からの支援者： 0名
プログラム概要	信州大学医学部保健学科全専攻、全学年(看護学、検査技術科学、作業療法学、理学療法学)学生が、同様の専攻を有するオーストラリア(パース)、カーティン大学で学べるように、平成12年から夏期休業中、短期留学(3週間の)機会を設けている。平成27年度より2週間のプログラムとした。 短期留学中は、医療コミュニケーション英語を中心とした英会話力の育成プログラムに加え、各専攻の講義・実習に学際的に参加し、オーストラリアの医療専門教育を体験している。また、各種病院、医療機関や福祉施設などの見学もコースワークに含まれている。 現地での滞在は、学生1～2名ずつのホームステイとなっている。このことにより現地での生活を体験しながら自ら英語を活用する機会を増やしている。また、ホストファミリー、カーティン大学学生やパース市民との交流や異文化体験により、今後の学生生活や将来のキャリア形成に向けてグローバルな視点を持つ機会となっている。	

実施状況・成果

今年度は看護学専攻学生8名、作業療法学専攻学生2名、理学療法学専攻学生8名が参加した。事前のオリエンテーションおよび学習を6回開催しパースの文化や社会生活に関する情報を収集し、本プログラムや滞在先に関する理解を深めて臨んだ。

現地到着後、生活方法、交通手段等に関して確認したのちにホームスティ・ファミリー宅に滞在し、各家族と交流し、豪州国での食、住を含めた異文化や英語を介したコミュニケーションを体験した。

国際的医療人育成のためのカーティン大学でのプログラムでは一般英語および医療関連の専門用語学習を2週にわたり少人数クラスでの講義や討議、専門科目での実習や見学実習を通して行い、実践的に学習することが出来た。2週目には学内・外の各種病院や福祉施設を含めた医療施設への訪問見学を実施した。看護学専攻学生はReagents Garden Age Care FacilityおよびKing Edward Memorial Hospitalを、作業療法学専攻および理学療法学専攻学生はLife Care Physiotherapy Clinic,WembleyおよびFiona Stanlay Hospital Rehabilitation Centerを訪問した。それぞれの場で見学とともにスタッフによる説明と質疑応答がなされた。豪州の医療体制、施設内容やそれぞれの職種の実際の業務や勤務状況も含めて本邦と比較しつつ経験し理解することができた。また、Curtin大学生や他国からの留学生と交流する機会を持つことができた。

研修最終日にはそれぞれの学生が研修中の自身の体験・習得したことや感じたことを英語でプレゼンテーションし質疑応答を行った。これまでの特に英会話およびリスニング力学習の不足を痛感した学生も多かったが、英語レベルアップに向けてのモチベーションは非常に高まっており、また、さまざまな体験を印象深く語っており、豪州での研修を通して日本を見つめ直すよい機会になっていた。さらに各自の専門科目に対する学習意欲もいや増していた。参加者全員がプログラム修了書をCutrin English directorのSimon Winetorube准教授より受領することができ終了した。9月下旬には報告会開催を予定している。

学生の声①ー医学部・保健学科 学生

8月7日から8月23日にかけてカーティン大学夏期海外単位認定プログラムに参加しました。海外へ行くこと自体が初めてだったので楽しみな気持ちと同時に不安もありましたが、プログラムが終わった今振り返ると、とても良い経験をさせてもらったと思います。二週間で英語・PTの専門の授業、施設見学、観光に加えてホームステイと、かなり濃い体験をさせていただきました。英語力やコミュニケーション力のなさを感じたのはもちろんですが、日本と異なる医療の仕組みや文化に触れ、もっと他の国へも行って様々な体験をしてみたいと強く感じました。今回の体験をぜひ今後に活かしていきたいと強く思います。協力してくださった、手を貸してくださったすべてのの方々、本当にありがとうございました。

学生の声②ー医学部・保健学科 学生

今回2週間という短い期間ではあったものの、このプログラムに参加できたことで、とても多くのことを学ぶことができました。私は今まで海外に行ったことがなく、自分の英語力にも自信がなかったため、不安ばかりでしたが、終わってみると2週間はあっという間で、とても充実した日々を送ることができました。カーティン大学の医療系の学生はとてもレベルが高く、英語が十分に話せることが大前提で、授業中は皆が積極的に発言や質問をしたり、整った設備の中で技術やコミュニケーションの練習をしたりしてスキルを高めていきます。様々な施設を見学していく中で、コミュニケーションに関して、患者さんの思いを聞くことの重要性を学びました。患者さんに対してうまく伝えたり、説明したりすることは大切なことですが、何よりもまず、患者さんの気持ちや意志を聞くことが大切だと教わりました。世界にはこのようなレベルの高い学生がいることを知り、私ももっと頑張ろうと思いました。

カーティン大学 研修風景



カーティン大学 集合写真

